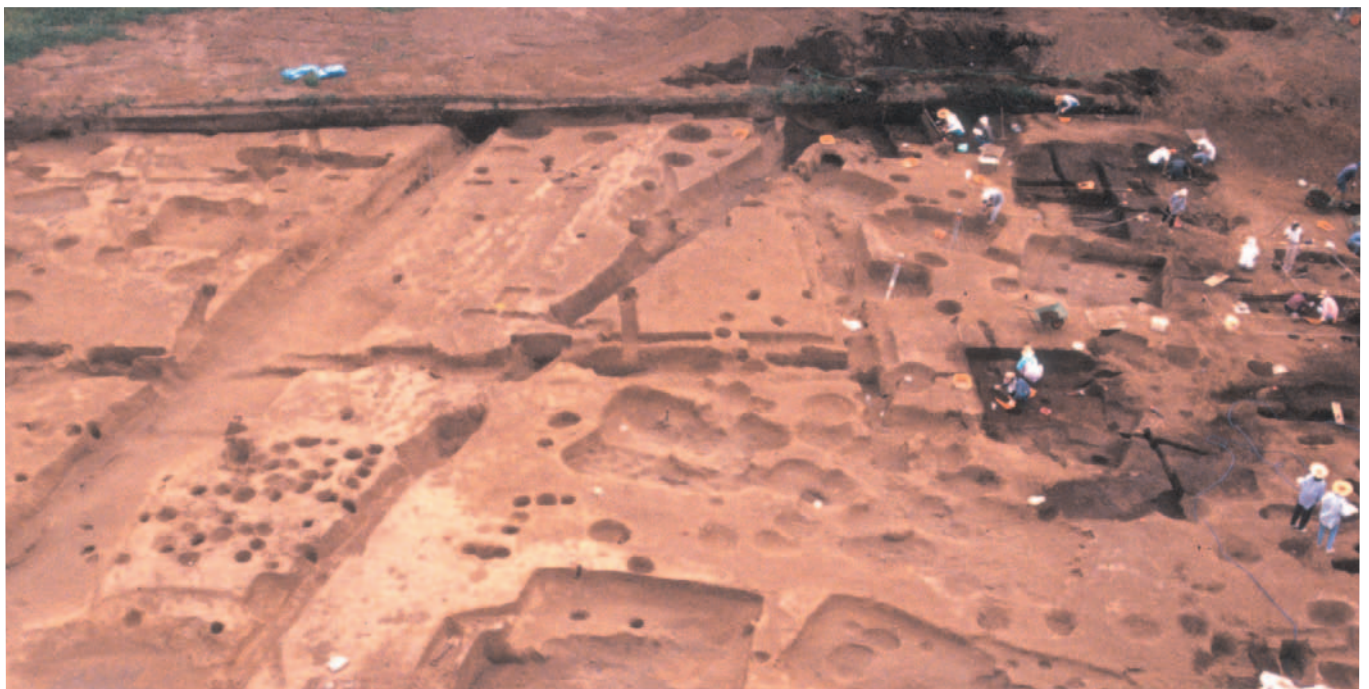


寄贈品コーナー「構之内遺跡第3地点」

期間：2003年 8月1日～9月11日

構之内遺跡第3地点は平成6年（1994）に実施され、掘立柱建物跡2棟、竪穴住居跡68軒、井戸跡4基、土坑154基、ピット396本、溝状遺構42条、土壇墓1基、集石遺構1基、道路状遺構2基、不明遺構7基が発見されました。また、遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、白磁、青磁、墨書土器、刻線土器、円面硯、朱墨の灰釉陶器転用硯、転用硯、銅印、銅か丸靱、石か丸靱、石製有孔円盤、古銭（神功開寶・隆平永寶・大観通宝・寛永通宝）、銅製品、「王」焼印、鉄製品、鉄滓、瓦、石製の玉、石製の紡錘車、砥石、土錘、縄文土器が出土しています。

本地点の最大の成果は1号道路状遺構です。調査区の南側で発見された道路は、両側溝の中心から幅を測ると9～11mとなり、極めて大型の道路になります。この大型の道路の性格は全国の類例から古代の東海道と考えられます。と同時にこの道路が構築された年代は8世紀第3四半期の遺物が出土していることから、それ以前に構築されたことがわかります。強いて言えば8世紀第2四半期まで遡ることができると考えます。この道路は第4地点の道路を含めると東に約700m延びていることが確認されています。また、1号道路に交差する2号道路は1号道路の側溝が埋没後に構築されたもので9世紀と考えられています。東海道は静岡県曲金北遺跡に次ぐものであり、古代交通を知る上で貴重な資料を提供してくれました。また、国庁（政庁）の所在地を追求する上でも大きな手がかりとなる発見と考えます。



構之内遺跡第3地点